開講科目名	建築計画・設計論(07-08)		
担当教員	遠藤 秀平	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと目標

建築計画・設計の基礎となる企画・構想力を育成するとともに、具体的な計画・設計手法についての理解を深め、理論的・実践的能力を開発する。

授業の概要と計画

建築の機能構成、規模構成、空間構成など建築計画・設計にかかわる諸理論について考察するとともに、いくつかの具体的事例を通して建築計画・設計手法の分析を行う。また、社会において設計活動を実践する建築家の具体例のヒアリングを行う。

成績評価方法と基準

成績の評価は、講義の内容を十分に理解して基礎知識を取得し、意欲的に講義に参加したと判断できる場合を優、講義の内容はよく理解したが、積極性が十分でないと判断できる場合を良、講義内容について最低限の基礎知識は習得したと判断される場合を可とする。

履修上の注意(関連科目情報等を含む)

要求提出物を満たすことが単位取得の基本条件となる。成果品の提出期限を厳守すること。

オフィスアワー・連絡先

オフィスアワーの日時は授業開始時に通知する。E-mail:endo@port.kobe-u.ac.jp

学生へのメッセージ

建築の設計活動はますます厳しい時代になっているが、その中でも未来にかけ新しい世代の建築家を招き、リアルな授業を展開する。

テキスト

テキストは随時通知する。

参考書・参考資料等

課題ごとに参考文献等を紹介する。
「Next Architect」遠藤秀平編著 学芸出版社 他

開講科目名	建築環境造形論(07-08)		
担当教員	末包 伸吾	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと目標

現代における建築や環境造形理論に関して考察するとともに、そうした理論の作品への具現化について事例研究を通じて考察する。

授業の概要と計画

現代建築・環境造形論の系譜をふまえ、以下のトピックから幾つかのものを選び考察する。
 ポストモダニズム、記号論と構造主義、歴史主義、タイポロジー、コンテクスチャリズム、現象学と場の意味、批判的地域主義、テクトニクス（構築）、ポスト構造主義と脱構築、都市空間の現代的再定義。

成績評価方法と基準

成績は、グループでのレポート(60%)、個人でのレポート(40%)の内容で評価する。評価が6.0点以上となったものを合格とする。評価の目安は、講義の内容を十分に理解して基礎知識を取得し、意欲的に講義に参加したと判断できる場合を優、講義の内容はよく理解したが、積極性が十分でない場合を良、講義内容について最低限の基礎知識は習得したと判断される場合を可とする。

履修上の注意(関連科目情報等を含む)

オフィスアワー・連絡先

学生へのメッセージ

テキスト

参考書・参考資料等

開講科目名	都市計画構成論(07-08)		
担当教員	三輪 康一	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと目標

現代都市と都市計画が直面する今日的テーマに焦点をあて、その都市計画上の位置づけと計画課題を論じ、種々の事例研究を通じて、解決のための方向と方策について討議・考察する。

授業の概要と計画

市民参加型まちづくりの系譜とその現在の課題について、以下のようなプログラム（講義と受講者による調査研究をもとにした討論）によって授業を進める。

- 1 テーマ解題
- 2 講義：市民まちづくり活動史1
- 3 講義：市民まちづくり活動史2
- 4 討議：調査研究テーマ設定
- 5 講義：市民まちづくり活動史3
- 6 講義：市民まちづくり活動史4
- 7 中間発表＋討論（2回）
- 8 講義：市民まちづくりの課題と展望（2回）
- 9 最終発表＋討議（2回）

成績評価方法と基準

成績は、毎回の授業内容に関するレポート(40%)、主題に関する事例研究レポート(60%)の内容で評価し、評価が60点以上となったものを合格とする。評価は、意欲的に授業に参加し、講義内容を十分に理解した上で、課題について適切な考察・討論ができると判断できる場合を優、講義内容は理解したが、考察・討論が十分でないとは判断できる場合を良、授業内容について最低限の知識は習得したと判断される場合を可とする。

履修上の注意(関連科目情報等を含む)

オフィスアワー・連絡先

オフィスアワーの日時は授業開始時に通知します。

学生へのメッセージ

テキスト

教科書は特に指定せず、授業時に配布する資料により講義する。

参考書・参考資料等

参考文献は、講義のテーマに即してその都度紹介する。

開講科目名	都市景観形成論(07)		
担当教員	三輪 康一	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと目標

都市景観を形成する基本的要素とその構成に関する理論を考察するとともに、その理論を実際の都市空間に適用する都市景観計画や都市景観形成のために手法や制度などの実践論を事例研究をもとに展開する。

授業の概要と計画

都市景観計画の理論と手法、その課題について、以下のようなプログラム（講義と受講者による調査研究をもとにした討論）によって授業を進める。

- 1 テーマ解題
- 2 講義：都市景観計画の系譜と理論（2回）
- 3 講義：都市景観調査の手法（3回）
- 4 討議：調査研究テーマ設定
- 5 講義：都市景観政策と景観デザイン誘導制度（3回）
- 6 中間発表＋討論（2回）
- 7 講義：都市景観計画の課題と展望（2回）
- 8 最終発表＋討論（2回）

成績評価方法と基準

成績は、毎回の授業内容に関するレポート(40%)、主題に関する事例研究レポート(60%)の内容で評価し、評価が60点以上となったものを合格とする。評価は、意欲的に授業に参加し、講義内容を十分に理解した上で、課題について適切な考察・討論ができると判断できる場合を優、講義内容は理解したが、考察・討論が十分でない判断できる場合を良、授業内容について最低限の知識は習得したと判断される場合を可とする。

履修上の注意(関連科目情報等を含む)

オフィスアワー・連絡先

オフィスアワーの日時は授業開始時に通知します。

学生へのメッセージ

テキスト

教科書は特に指定せず、授業時に配布する資料により講義する。

参考書・参考資料等

参考文献は、講義のテーマに即してその都度紹介する。

開講科目名	建築都市安全計画論(07-08)		
担当教員	北後 明彦	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと目標

建築及および都市の生活空間において、人命・財産・機能の保全をはかり、安全で安心できる空間を構築するための、空間安全計画の理論を習得させることを目的とし、具体的な事例に触れつつ、危険度評価、防災システム設計、避難計画などについて詳しく講述する。

授業の概要と計画

1) 防災実態・災害動向の考察, 2) 危険度評価・被害想定の手法, 3) 防災計画・安全計画の理論, 4) 防災システム設計の手法, 5) 防災に関わる法制度について述べるとともに、具体的に a) 都市の地震被害想定と危険度評価, b) 広域避難計画の立案とシミュレーション, c) 建築防災計画の立案とシミュレーションの方法を、実習を通じて体得させる。

成績評価方法と基準

成績は、レポートA(33%)、レポートB(33%)、レポートC(33%)の内容で評価する。評価が60点以上となったものを合格とする。評価の目安は、講義の内容を十分に理解して基礎知識を取得し、意欲的に講義に参加したと判断できる場合を優、講義の内容はよく理解したが、積極性が十分でないとは判断できる場合を良、講義内容について最低限の基礎知識は習得したと判断される場合を可とする。

履修上の注意(関連科目情報等を含む)

オフィスアワー・連絡先

学生へのメッセージ

テキスト

参考書・参考資料等

開講科目名	地域管理計画論(07)		
担当教員	塩崎 賢明	開講区分	単位数
		前期	2単位
授業のテーマと目標 主として居住地の環境形成・管理の理論と実際について講じる。			
授業の概要と計画 地域環境の成り立ち，地域環境の形成とその主体，地域環境管理の方法，について，各種の事例を通して論じる。外国文献の講読・討議も適宜行う。			
成績評価方法と基準 			
履修上の注意(関連科目情報等を含む) 			
オフィスアワー・連絡先 			
学生へのメッセージ 			
テキスト 			
参考書・参考資料等 			

開講科目名	線構造力学(07-08)		
担当教員	田淵 基嗣	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと目標

建築物の構造設計の基本である線材で構成される骨組の弾塑性挙動について、関連する諸問題の解析方法を含め、学部で得た知識を基礎にしたより高度で実践的な設計の考え方を修得させることを目的とする。主として鋼構造物を対象とし、下記の項目に関連する幾つかの内容について講述するとともに関連文献の輪読を行う。また、その時々最新の話題もとりあげる。

授業の概要と計画

1. 部材構成要素の局部座屈
2. 部材の座屈と骨組の挙動
3. 高次不静定構造物の弾塑性解析

成績評価方法と基準

成績は、授業中の発表(30%)と授業終了後に課す演習課題に対するレポート(70%)の内容で評価する。評価の目安は、授業中の発表については、十分に予習し内容を理解しているかで判断する。レポートについては、授業内容を十分に理解して基礎知識を取得し、得られた知識を基に実際の設計における考え方に応用できるかを見る。意欲的に授業に参加し、十分理解したと判断できるような発表、適切な文献調査がなされたレポートが作成された場合をA、授業内容はよく理解したが、積極的な文献調査がなされなかったと判断できるレポートが作成さ

履修上の注意(関連科目情報等を含む)

特になし

オフィスアワー・連絡先

授業時に指示する。

学生へのメッセージ

テキスト

授業時に配布する。

参考書・参考資料等

開講科目名	固体計算力学I(07-08)		
担当教員	芥川 真一、飯塚 敦、大谷 恭弘	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと目標

力学系の基礎である連続体の力学およびその数値解析法を講義する。構造力学，土質力学などの個々の体系を縦断し，包含する概念，考え方，道具を，連続体力学，計算力学として提供することを目的としている。

授業の概要と計画

連続体の変形問題を取り扱う。応力，ひずみの概念，固体，流体などの材料特性と代表的な数理モデル（構成式）を学ぶ。ついで，力学問題に対する境界値問題としての定式化，その特徴，そしてその解法を学ぶ。道具として用いるベクトル・テンソル解析などの数学的技法についても，線形代数との関連性を重視して，講義する予定である。
ベクトル解析の復習，テンソル解析，運動と変形，保存則，弾性体の構成式，弾塑性体の構成式，粘弾性体の構成式，弾性体に対する境界値問題，弾塑性体に対する境界値問題

成績評価方法と基準

成績は，課題レポート(50%)，定期試験(50%)の結果を総合評価する。評価が60点以上となったものを合格とし，80～100点の場合を優，70～79の場合を良，60～69点の場合を可と評価する。

履修上の注意(関連科目情報等を含む)

オフィスアワー・連絡先

オフィスアワーの日時は、授業開始時等に通知します。

学生へのメッセージ

テキスト

資料配布

参考書・参考資料等

富田佳宏著，連続体力学の基礎，養賢堂。
Y.C.ファン著，大橋ら訳，固体の力学/理論，培風館

開講科目名	構造解析学(07)		
担当教員	未定	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと目標

建築構造の性能を明示する設計に対応するべく、対象とする建築構造物およびそれに求めたい性能に応じた、構造解析手法と性能評価の考え方について講述する。自ら建築構造の特性に応じた適切な解析方法を選択できる素養を身につける。

成績は、レポートの内容で評価する。評価が60点以上となったものを合格とする。評価の目安は、講義の内容を十分に理解して基礎知識を取得し、意欲的に講義に参加したと判断できる場合を優、講義の内容はよく理解したが、積極性が十分でないと判断できる場合を良、講義内容について最低限の基礎知識は習得したと判断

授業の概要と計画

1. 性能指向型の設計
2. 中高層建築物の構造解析
3. 中高層建築物の地震応答解析
4. 免震構造物の地震応答解析と性能評価
5. 制振構造物の地震応答解析と性能評価

成績評価方法と基準

履修上の注意(関連科目情報等を含む)

建築耐震構造および振動学の基礎知識を習得していることが望ましい。

オフィスアワー・連絡先

学生へのメッセージ

テキスト

参考書・参考資料等

北村春幸「性能設計のための建築振動解析入門」彰国社

開講科目名	建築構造計画論(07-08)		
担当教員	難波 尚	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと目標

地盤，環境，経済などの諸条件の中で建築に要求される機能や形態を実現するための合理的な構造形式，材料，工法を選択する際に必要となる知識を習得する。

授業の概要と計画

下記の内容の中から，いくつかのテーマを選定して講義を行う。講義の後半では事例調査を行い具体的な事例について構造計画の理解を深める。

1. 外力と構造のモデル化，数値解析手法
2. 各種構造形式の構造特性と計画
3. 構造信頼性，リスク評価，最適化手法，感度解析
4. 事例分析

成績評価方法と基準

成績は，レポートA(40%)，レポートB(60%)の内容で評価する。評価が60点以上となったものを合格とする。評価の目安は，講義の内容を十分に理解して基礎知識を取得し，意欲的に講義に参加したと判断できる場合を優，講義の内容はよく理解したが，積極性が十分でない場合を良，講義内容について最低限の基礎知識は習得したと判断される場合を可とする。

履修上の注意(関連科目情報等を含む)

オフィスアワー・連絡先

学生へのメッセージ

テキスト

参考書・参考資料等

開講科目名	防災構造工学特論(07)		
担当教員	孫 玉平	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと目標

構造物の破壊は構造物の耐力が外乱（作用荷重）より小さい場合に起こる。従って安全な構造物を設計するには外乱の性質を知り、構造物の耐力を適切に推定することにつぎる。
本講義は、諸種外乱の算定手法およびその背景を理解し、構造物の終局状態とその時の耐力および変形を計算できるようにすることを目的として行う。

到達目標：

1. 構造物に作用する諸荷重の算定手法（日本）を理解・応用できる
2. 構造物に作用する諸荷重の算定手法（外国）を理解・応用できる
3. 構造物の終局強度型設計法を理解・応用できる
4. 既存RC造建物の耐震診断・補修設計法を理解する

授業の概要と計画

第1週～6週

主として建築構造物を対象として、構造物に作用する各種外乱（地震荷重、風荷重など）の特質を講述する。また、地震荷重を中心に、文献調査させ、他国の荷重に関する計算法と日本のそれとの相違点について討論させる。

第7週～10週

構造物の終局耐力を予測する設計法（塑性設計・終局設計・性能設計）に関しての理論を講述する。

第11週～15週

既存不適格構造物の耐震補強設計について講述する。

成績評価方法と基準

成績は、レポートA(40%)、レポートB(30%)、レポートC(30%)の内容で評価する。評価が60点以上となったものを合格とする。評価の目安は、講義の内容を十分に理解して基礎知識を取得し、意欲的に講義と討論に参加したと判断できる場合を優、講義の内容はよく理解したが、積極性が十分でない判断できる場合を良、講義内容について最低限の基礎知識は習得したと判断される場合を可とする。

履修上の注意(関連科目情報等を含む)

構造力学、鉄筋コンクリート構造をはじめ諸種構造の特性に関する知識が要求される。

オフィスアワー・連絡先

毎週水曜日午後5時から6時半
sunlili@person.kobe-u.ac.jp

学生へのメッセージ

自主的に関連文献を調べてほしい

テキスト

授業中に配布する

参考書・参考資料等

Seismic evaluation and retrofit for existing concrete structures, Applied Technology Council

開講科目名	環境設備計画(07-08)		
担当教員	中嶋 浩三、藤本 健	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと目標

地域、都市や建築を支える環境インフラは、今後益々重要となる。その現状と今後の動向について考察し、事例を紹介しつつ計画の基本的な考え方、計画手法について習得を図る。

授業の概要と計画

わが国における環境やエネルギーの現状を紹介し、環境共生型都市・建築の計画手法、システムメニューや最新技術について、「環境インフラ」を中心に解説し、導入事例を紹介しつつ今後の課題と方向について講述する。

成績評価方法と基準

成績は2回のレポート（各50%）の内容で評価する。

履修上の注意(関連科目情報等を含む)

特になし

オフィスアワー・連絡先

学生へのメッセージ

テキスト

適宜資料を配布

参考書・参考資料等

開講科目名	建築環境システム(07)		
担当教員	高田 暁	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと目標

建築システムの計画、設計において、環境工学的視点からの整合性のある設計は、安全・健康・快適性の重視、エネルギー・資源の適切な利用・配分の必要性、建築物の自律・共生化の要請の観点から、非常に重要な分野となってきた。この講義においては、これらを配慮した概念の体系や事例を取り上げるとともに、そのシステム設計法について述べる。講義に関連したテーマを課題として提示し、レポートの作成を課す。

授業の概要と計画

ライフサイクル評価システム、コミッショニングなどのトピックを適宜取り上げ、目的を定める際の意味決定の方法、目的達成のために建築物に求められる性能と手続きについて紹介する。その上で、建築物に求められる性能を確保するためのシステム設計について、システムの枠組み、設計条件、解析・評価法、判断基準等を設定する方法を論じる。

成績評価方法と基準

成績は、レポート(40%)、定期試験(60%)の結果を総合評価する。評価が60点以上となったものを合格とする。評価の目安は、講義の内容を十分に理解して基礎知識を取得し、意欲的に講義に参加したと判断できる場合を優、講義の内容はよく理解したが、積極性が十分でないと判断できる場合を良、講義内容について最低限の基礎知識は習得したと判断される場合を可とする。

履修上の注意(関連科目情報等を含む)

特になし

オフィスアワー・連絡先

授業開始時に通知します。

学生へのメッセージ

積極的な姿勢での受講を期待します。

テキスト

授業開始時に通知します。

参考書・参考資料等

授業開始時に通知します。

開講科目名	設計演習特論(07-08)		
担当教員	建築計画系教員	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと目標

具体的な都市施設の設計および地域の計画等の演習を行う。

授業の概要と計画

演習課題は年度によって異なるが、以下はその課題例である。

1. 非常勤講師課題(7週、下記から1題を選択)
 - ・超高層ビルの改修計画(鎌谷)
 - ・酒蔵の空間利用計画(本多)
2. 学内教員課題(6週)
 - ・日本建築学会設計競技

成績評価方法と基準

成績は上記2課題の提出作品の成果を総合評価する。評価が60点以上となったものを合格とし、80~100点の場合を優、70~79点の場合を良、60~69点の場合を可と評価する。

履修上の注意(関連科目情報等を含む)

オフィスアワー・連絡先

学生へのメッセージ

テキスト

参考書・参考資料等

開講科目名	建築ゼミナールI(07-08)		
担当教員	建築計画系教員	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと目標

建築系の各関連分野における国内外文献の購読や研究発表等と、少人数による討議を行う。

授業の概要と計画

成績評価方法と基準

成績は課題に対する発表，レポートなどにより評価し，60点以上を合格とする。発表，レポートの内容が充実しているものに対し優，平均的なものに対し良，最低限のものを可とする。

履修上の注意(関連科目情報等を含む)

少人数教育を前提とするため，建築系における計画意匠分野・環境工学分野を主専攻とする学生に限る。

オフィスアワー・連絡先

学生へのメッセージ

テキスト

参考書・参考資料等

開講科目名	建築ゼミナールIII(07)		
担当教員	建築計画系教員	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと目標

建築系の各関連分野における国内外文献の購読や研究発表等と、少人数による討議を行う。

授業の概要と計画

成績評価方法と基準

成績は課題に対する発表，レポートなどにより評価し，60点以上を合格とする。発表，レポートの内容が充実しているものに対し優，平均的なものに対し良，最低限のものを可とする。

履修上の注意(関連科目情報等を含む)

少人数教育を前提とするため，建築系における計画意匠分野・環境工学分野を主専攻とする学生に限る。

オフィスアワー・連絡先

学生へのメッセージ

テキスト

参考書・参考資料等